

令和7年度 自己評価書及び学校関係者評価書

1 本年度の重点目標 『よく学び・よく遊び・たくましく生きる子どもの育成』～6年間の学びが積み上がる教育課程の編成～

2 本年度の経営方針

まなびづくり～考える子どもを育む授業 に関わって ○子ども主体の授業作り ○授業と家庭の学びをつなぐための方策を具体化し実践する ○効果的なICT活用に向けた校内研修の充実を図る ○学習規律の徹底を図る ○ノートを大事にする子を育てる	からだづくり～健康な子どもを育む環境づくり に関わって ○運動・遊びの環境作り ～三間(仲間・空間・時間)の創出 ○家庭での生活習慣作り ～「運動」「食事」「睡眠」生活習慣の確立 ○SNSについて児童・保護者への啓蒙 (・情報モラル教育課程への位置付け・出前授業活用・外部機関との連携) ○命・健康を考える教育課程の整備 ○食指導・性教育の充実
ころづくり～あこがれを育む手立て に関わって ○みんなの当たり前を生む学級集団作り (時間・挨拶・廊下歩行・集団遊び) ○キャリアパスポート有効活用 ○自治的活動・異学年交流の充実 ○通常の学級と特別支援学級の日常的な交流 ○多様性を認め合い自他の命を守る教育の充実 ○読書環境充実の立案実施	つながりづくり に関わって ○家庭・地域・中学校と連携協働体制の確立 藻岩中学校区 目指す15歳の子ども像

3 自己評価および学校関係者評価【達成状況…A(達成している) B(おおむね達成している) C(あまり達成していない) D(ほとんど達成していない)】

【4 ≧ A > 3 3 ≧ B > 2.5 2.5 ≧ C > 2 2 ≧ D】

観点	評価項目	達成状況	実践内容や今後の改善の方策	学校関係者評価	
				自己評価の適切さ	改善策の適切さ
まなびづくり	まなびづくり～考える子どもを育む授業 に関わって ○子ども主体の授業作り ～「たい」を生み、「あい」で深める授業 ○授業と家庭の学びをつなぐための方策を具体化し実践する ○効果的なICT活用に向けた校内研修の充実を図る ○学習規律の徹底を図る ○ノートを大事にする子を育てる ○学年交換授業の実施	A	○昨年から引き続き、子ども主体の授業づくりや学年交換授業については、一定の効果が見られている。引き続き取組を継続していきたい。 ○「藻岩の学びを確かめる会」では、様々な方の御助力をいただき、子どもの学びを支えることができた。 ●「家庭での自主的な学習」については、昨年度同様課題が見られる。授業と家庭での学びをつなぐような宿題・家庭学習のあり方を教員間で共有していきたい。	A	A
ころづくり	ころづくり～あこがれを育む手立て に関わって ○みんなの当たり前を生む学級集団作り (時間・挨拶・廊下歩行・集団遊び) ○キャリアパスポート有効活用 ○自治的活動・異学年交流の充実 ○通常の学級と特別支援学級の日常的な交流 ○多様性を認め合い自他の命を守る教育の充実 ○読書環境充実の立案実施 ○道徳教育の充実	B	○学校・児童・保護者ともに、多くが「毎日安心して明るく生活ができています。」と感じている。反面、日によってだが、数名の児童が朝から不安を抱えながら登校する様子も見られた。今後も、そのような児童への「心からの寄り添い」に心掛けていきたい。 ●普段から手の届く場所に読み物を「配置」する、本に向かう「時間」を設定する。など、学級や学校全体で進めていく。また、朝読書の充実を進めていく。 ●本校では、毎年「挨拶」が課題として取り上げられる。このことは、学校として重く受け止める必要がある。必ず改善し、笑顔とあいさつであふれる学校を目指していきたい。 【指導の具体】 ・自治的な活動から課題意識を育て、児童が自分事としてとらえることができるような工夫を考える。 ・学校評価から、活動部より「挨拶チャレンジカード」「挨拶指導」の提案。(今年度中に取組の教科を推進) ・職員も正しい挨拶をすることを徹底。(季節・時間に合った言葉。語尾ははっきりと等)	B	B
からだづくり	からだづくり～健康な子どもを育む環境づくり に関わって ○運動・遊びの環境作り ～三間(仲間・空間・時間)の創出 ○家庭での生活習慣作り ～「運動」「食事」「睡眠」生活習慣の確立 ○SNSについて児童・保護者への啓蒙 (・情報モラル教育課程への位置付け・出前授業活用・外部機関との連携) ○命・健康を考える教育課程の整備 ○食指導・性教育の充実 ○運動の日常化 ～すこやかデーの励行・活動量を保障した授業実践	A	○R6年度に引き続き、「持久力」「粘り強さ」の向上を目指す。今年度は、放課後のグラウンド開放、木曜日のすこやかデー(休み時間による全員遊び)。遊び道具の充実といった、「三間の創出」を意識した取組を進めた。 ●スマホなどの長時間のゲームや動画視聴、また、SNS使用による友人間のトラブルが課題。土曜参観を利用し家庭との連携を図ったり、出前授業を活用したりすることを行っていく。	A	A
つながりづくり	つながりづくり に関わって ○家庭・地域・中学校と連携協働体制の確立 藻岩中学校区 目指す15歳の子ども像 「自ら気づき、考え、実行する子ども」	A	○パートナー校同士の交流、幼保小の交流を充実させることができた。本校で大切にしている「あこがれ」の関係性の広がりにもつながっている。 ○幼保との連携では、パートナー園が3園と複数ではあるが、日程を調整しつつ、5年生との交流を中心に深めることができた。	A	A

学校関係者による評価意見

・「藻岩の学びを確かめる会」では、子どもたちの学ぶ姿から、学校の計画的・継続的で丁寧な指導を垣間見ることができた。課題探究的な学びや、考えることを大切に授業展開に触れることができた。
 ・学校は今後も「ころづくり」、特に挨拶の力を育てる場であってほしい。自ら挨拶のできる子を育てるためには、学校をはじめ、家庭からの習慣も大切にしたいところである。
 ・ICTの活用(デジタル教材の活用)については、様々な取組・実践例も参考に進めてほしい。児童が直接かかわる教材として「液晶画面」と「紙」のバランスを考へつつ、使用を続けてほしい。
 ・学校評価を行う上で、教職員の努力目標や行動が結果に対してどのように作用したのか、大事な視点が見えにくい。達成度こそが評価であり、未達成事項に改善点が出てくるのではないか。